保育計画成果報告書

法人名等	社会福祉法人　仙慈会
施設名	幼保連携型認定こども園　荒井マーヤこども園
報告者（役職）	田山　理紗（ 副主任保育教諭　）
住所・連絡先	宮城県仙台市若林区荒井字沓形８５－１
	☎　　０２２－３５４－０６５４ E-mail　araima-ya@grace.ocn.ne.jp

○タイトル（保育計画）

発見、驚きがある緑に囲まれた空間～季節を感じる場所～

○主な助成備品

丸太・樹木(ジューンベリー、サンゴジュ、アオダモ)　植物(ユキヤナギ、ヤツデ、ガマズミ、オオデマリ、アガパンサス、ツワブキ、ミスカンサス、ラムズイヤー) ハーブ植物(タイム、アジュガ、カモミール、レモンバーム、アップルミント　他)

１．保育計画策定の目的

本園には３階屋上に５００㎡の園庭があります。屋上のため大きな重さのある固定遊具が置けず、小型遊具が１つと砂場、そして三輪車などの遊具が設置してあります。一部分に畑を作り作物を育てたり、タイヤや板をたくさん用意し子ども達が自由に動かして遊べるようにする等、園庭での遊びの充実を課題としながら、職員で考え試行錯誤してきました。子ども達の姿を見ているとアリやダンゴ虫を見つけてはしゃがみ込み、小さな手を動かし一生懸命捕まえようとしたり、雑草のちょっとした変化に気づき嬉しそうに伝えたり、畑の野菜が大きくなっているか自然とそちらへ足を運ぶなど、少ない自然環境の中でも発見を楽しんでいる姿があります。園庭（外）は子ども達の期待と想像があふれているそんな場所であることを感じています。

そこで、園庭の一角を改造し、子ども達が自然と身近に触れ合える場所を作りたいと考えました。遊びに使える草花、季節を感じる草木、触り心地や匂いに特徴がある葉っぱ、チョウチョウなどの虫が集まる植物。そこで子ども達が発見を楽しみ、ワクワクしたり、不思議に思ったりしながら、それらを取り入れて遊ぶ楽しさを十分に味わい、豊かな感性が育めるようなガーデンを作ることを計画しました。

２．具体的な実施内容

①園庭の場所を確保

園庭内の更地に生えている雑草を抜き、新しい草木を植えられるように整地を行いました。草むしりをする職員の姿を見て手伝ってくれる子ども、たくさん抜かれた草の根についているものに気づき、観察を始め、利用して遊びだす子もいました。

②植樹

植樹に適した時期を見計らい、4 月末に専門の方の力を借り、「子どもが遊べる木と草花」「四季の移り変わりを感じられる樹木」を選定し、配置や高低を工夫しながら植樹をしました。

元からあったレンギョウのアーチを活かしながら、実がなる樹木を植樹し、虫が集まるようなバタフライガーデンを作り、様々な匂いのするハーブを植え、小道の中を生い茂る草をかき分けて歩けるようにグラス植物を配置し、一部は芝生にしました。遊びに取り入れられる植物や発見や気付きがあるように周りには様々な特徴のある植物を植え、子ども達が身近な自然とふれ合い、遊びが発展できるよう願いを込めました。

植樹の際、何もなかった場所が徐々に変わっていく様子に、子ども達もどうなるんだろうと興味津々で早く遊びたい様子が見られました。植樹後は根付くまで 1 ヶ月程は入らず周りから見て過ごしました。どんな植物があるのか子ども達と一緒に見て回り、優しく触れたりしながらガーデンで遊べるようになるまで期待を高めていけるようにしていきました。

《植樹後の園庭》

はじめて見る植物にワクワク感が止まらない子ども達は、「これは何？」と先生にたくさん聞いてきたり、触ったり、匂いをかぎ「この葉っぱフワフワする」「気持ちいい」「なんかいい匂いする」とたくさんの発見や驚きを言葉にしていました。

植物に誘われ、訪れる虫の種類も増えてきました。「みて～ここに虫がいるよ」と声をかけ合い一緒に観察したり他にもどこにいるのか探してみたりと、友達同士で思いを共有しながら楽しむ姿も見られました。

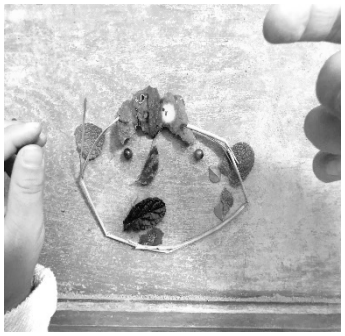
ガーデンにより親しみが持てるようにと『※のんのくんガーデン』と名前をつけました。
（※仏教を理念とする園であり、子ども達が仏さまのことをのの様と呼んでいる為）

《初夏～夏ののんのくんガーデン》

植物もひと回り大きく育ち、樹木のジューンベリーにも実がつきはじめ、葉っぱも青々と色づき、植物の生長を感じる時期になり、子ども達のより一層いきいきとした姿が見られるようになりました。ジューンベリーの実は鳥も大好きな実なので鳥が飛んでくると、「ご飯食べにきたのかな～」という声が聞かれたり、虫を見つけると「この虫はこの実食べるかな～」と虫のそばに実を置いてじっくりその様子を観察していました。集めたジューンベリーの実をつぶして水を入れ、そこにレモンバームやアップルミントを加えジュース作りをするなど今までの園庭の遊びにはなかった遊びが見られるようになりました。
カラスノエンドウは鞘から種を取り出すことに長い時間集中し、沢山集めたことを満足そうに見せてくれました。「ママにお土産にするんだ！」と手の中に大事に持っている姿も見られました。

《秋ののんのくんガーデン》

暑さも落ち着き始め、のんのくんガーデンの様子も少しずつ秋の雰囲気に変わり始めてくると自然物を取り入れて遊ぶ姿が増えてきました。子どもの遊ぶ姿を見て園庭にあったテーブルをのんのくんガーデンに移設し、遊びの広がりや充実を図れるようにしました。ままごと遊びを通して友達とやりとりをしながら役割を決めたり、次はどうするのか話し合ったりと遊びが盛り上がっていました。



子ども達に落ちている葉っぱで顔を作って見せると、「作ってみた～い」と自分のイメージに合う材料を探し始め、集めてきた材料を使ってテーブルの上で顔作りが始まりました。徐々に友達が集まり、出来上がった思い思いの顔を見て「これはママの顔」「葉っぱ星人」「もじゃもじゃ頭」と名前を付け、「かわいいね」や「面白い顔だね」等感想を伝え合いながら楽しさを共有する場面も見られました。

《冬ののんのくんガーデン》

冬になると樹木の葉も落ち、虫の姿も見えなくなり、少し寂しい姿になりましたが、樹木の周りで落ちている小枝を拾って雪と一緒に遊んだり、霜柱を見つけると、「これ何？」と興味を示していました。寒くなると虫たちがいなくなることや草木が枯れてくること等に気づき、季節の変化を感じることが出来ました。

３．その成果と評価

更地だった部分に様々な植物が植樹されたことで、子ども達はその空間の中で探索活動を楽しみ始めました。初めて見る植物に興味・関心を示し、直に触れたり匂いを嗅ぐ経験から、感じたことを言葉で表現したり、植物の名前を覚えるなど自然を身近に感じることができました。季節の変化を身近に感じ、植物が増えることで今まで見たことのない虫や生き物も集まるようになり、発見や驚きを友達同士で喜び合い、見せ合ったり一緒に探したり調べたりする姿が増えました。保育教諭自身も、自然の不思議さに気づき子ども達と一緒に遊びを展開してきたことで、きっかけが生まれ子ども達自らがそこから遊びを広げていく姿も見られるようになりました。その様子をみて他児が真似をしたり、遊びに加わる姿があり、子ども達のコミュニケーションの場になっているように感じます。

遊び始めたころは、大きくなる前に植物を抜いたり枝を折ってしまったり、咲いた花を茎ごととってしまったりとダメにしてしまうことも度々見られましたが、植物の命や扱い方などを子ども達と考える機会に変えることができました。植物も生きているということを経験しながら学び、生長している様子を見守ったり、大事にしながら遊びの中に取り入れていくようになりました。ただ遊ぶだけではなく自然の尊さを感じ、自分の経験したことを優しく年下の子に教えてあげたりする姿も見られました。緑に囲まれた空間ができる

ことで、気持ちが落ち着ける空間であったり、その場所を好んで遊ぶ子や友だちと一緒の遊びに広がりができ、自分達で遊びを考えたり遊びの充実が図れるようになりました。

４．今後の課題と展望

園庭の雰囲気が変わり、遊びも少しずつ変化してきてはいますが、植樹されたばかりでまだ小さいものや、子ども達に踏まれることで根付かなかった植物もあります。新しいものを植えたり、雑草を定期的に処理したり、次の年も植物たちが生き生きと育つように剪定をするなどの日々の管理を行いながら植物の生長を促していかなければなりません。

子ども達が遊べる植物を中心に植樹をしましたが、葉や花、木の実を遊びで扱うには月日が必要になります。子ども達と園と一緒に大きく豊かに成長できるように大切に関わっていくことが大事であり、そのためには私たち保育教諭も、子どもが満足して遊べる空間になるにはどうしたら良いか常に考え学び、今回の助成を受けた教育・保育活動をベースに試行錯誤しながら改善し、よりよい空間になることを願い展望とさせていただきます。

以上